

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
中・高等学校共通 国 語

注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、20ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（－）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 の解答欄の③にマークしてください。

(例 1)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="1"/>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の 、 などの には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) 、、、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを 、、、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="2"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="3"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="4"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に 、 などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、、 のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\text{56}}{\text{7}}$ に $-\frac{4}{5}$ と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$ として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="5"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="6"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="7"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 、、。」と表示のある問に対して、2と5と8と解答する場合には、次の(例4)のように「②、⑤、⑧」の順にマークします。

このとき、「②、⑤、⑧」以外の「⑤、②、⑧」や「⑧、②、⑤」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="11"/>	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="12"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="13"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

「*」のついた部分は、掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

—

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

(野矢茂樹「心という難問」による)

問1 傍線部(ア)～(ウ)のカタカナを漢字に直したとき、その漢字と組み合

わせて二字熟語になるものは、次の各群の1～4のうちのどれか。

解答番号は(ア)が 、(イ)が 、(ウ)が 。

(ア) クサリ

4 3 2 1
収 示 配 連

(イ) セツシユ

4 3 2 1
包 那 稚 写

(ウ) カツヤク

4 3 2 1
介 品 束 勇

問2 傍線部(1)「

＊

「とあるが、「＊」について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 4。

1 私たちは自分以外の「＊」と何らかの「＊」を共有するものなので、「＊」を一切共有しない「＊」は存在しないということ。

2 「＊」とは部分的にしか「＊」を共有することができないものであり、「＊」であるかどうかは共有する「＊」の多寡によって決まるということ。

3 自分と関わりがないような「＊」であっても、共感できる部分が少なくとも一つはあるため、世界に認識できない「＊」はいないということ。

4 人間同士であれば言語は違ってても、「＊」を共有することはできるので、世界に存在する「＊」であれば自分と関係しない者はいないということ。

問3 傍線部(2)「

＊

「とはどういうことを説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 5。

1 人が集まり同じ時間を共有することで「＊」が創造されるので私たちの存在するところには必ず「＊」が存在するということ。

2 独自の価値判断をする人々が多くいるので、私たちは協同して何かをなすことができない世界で生活しているということ。

3 私たちは同じ時間を過ごしていても同じ「＊」を生きていることのできないので、それぞれが主人公として振る舞っているということ。

4 私たちは自らの関心によって価値付けた世界で、「＊」を部分的に共有しながら、各々の日常を共に生きているということ。

問4

Ⅶ 段落の役割について述べたものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 6。

- 1 直前の段落で述べた仮説を受け、Ⅶ 段落では、現代哲学で論じられている内容を引用し、筆者の主張を補強する役割。
- 2 直前の段落で確認した一般論に変えて、Ⅶ 段落では、新たな観点を導入し、筆者の主張を転換する役割。
- 3 直前の段落で提示された事柄に対して、Ⅶ 段落では、異なる観点から論を展開し、筆者の主張につなぐ役割。
- 4 直前の段落まで述べてきた具体的な内容を受け、Ⅶ 段落では、抽象的に言い換え、筆者の主張をまとめる役割。

問5 傍線部(3)「

＊

」とあるが、その理由

を説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 7。

- 1 言葉の運用にはルールがあるため、的確に使用されているかを判断するための規準を必要とするが、その規準は既に定まっていると考えているから。
- 2 言葉は規範的に使用されなければ成立せず、的確に使用されているかを判断するためには、自分以外の他者による評価を必要とすると考えているから。
- 3 言語の運用には規準が定まっていて、その規準は言語を的確に運用する他者との交流を通して、身に付けていくべきものだと考えているから。
- 4 言葉は規範的に用いられているため、どんな単語でも使用できるのではなく、判断するための根拠を全員で確認し合わなければならぬと考えているから。

問6 次の記述は、高等学校国語科「論理国語」を履修する生徒が、傍

線部(4)「*****」という

部分について発言した内容である。この発言を受けた教師の指導内容として最も適切なものは、後の1～4のうちではどれか。解答番号は 8。

生徒：言葉が開く概念には、「*****」という単語一つをとっても、人々が共有できる「*****」があるということが分かりました。そして、「*****」は、単語からでも開かれているということも分かりました。今後、「*****」についてよく考えて生活していきたいと思えます。

1 言葉が開く概念について理解し、「*****」についてよく考えて生活していきたいと発言したことについては評価しつつ、X段落をもう一度読ませ、「*****」が開くものは「*****」の他に何かあるかを考えさせた上で、筆者が何を主張しようとしているかを考えさせる。

2 「*****」がどの言語でも共有できるものであることを読み取ったことは評価しつつ、人間に対してのみ「*****」は成立するものであることをIV段落の具体例を抽象化させることを通して理解させた上で、筆者が具体例を通して述べたかったことは何かを考えさせる。

3 「*****」は単語からでも開かれていることを読み取ったことは評価しつつ、「*****」が単語以外から開かれることもあるということをもI段落の具体例や重要語句から確認させた上で、重要語句が導き出す筆者の思想とは何かということについて考えさせる。

4 「*****」に注目していかなければならないことを読み取ったことは評価しつつ、「*****」が導く「*****」にはどのようなものがあるかをVIII段落から抜き出させ、典型的な「*****」とは何かを確認させた上で、文章全体を通して、筆者が言いたいことを考えさせる。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

新聞記者の自分は、ある夜、兼ねてから話のよく合う大尉から、次のような話を聞かされた。

運送船備後丸に乗っていたところ、旧友の糸井国之助と再会した。糸井国之助というのは「 * 」をしている糸井専造の一人息子で、僕（大尉）が十五の時、その「 * 」に乗せてもらったことがきっかけで仲良くなった人物である。それから僕は、毎日のように国之助と馬に乗り、互いに往来するようになった。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

問1 傍線部(1)

＊

「とあるが、この部分について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。

解答番号は 9。

1 「＊」を営むことで、「＊」や「＊」たちと交流する機会を得られることが、「＊」の生活上の楽しみとなっているということ。

2 馬を借りに来た者たちが、うまく馬を乗りこなせずに馬を借りに来なくなることが、馬乗りとしての「＊」の誇りを満たしているということ。

3 乗馬術を教えることを通して、今の若い者たちの軟弱な精神を鍛え直してやるのが、武士の出である「＊」にとっての生き甲斐となっているということ。

4 「＊」や「＊」であっても、同じように妥協することなく厳しく指導することに、頑固者の「＊」は意義深さを感じているということ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

(国木田独歩「馬上の友」による)

問2 傍線部(2)

＊

「とはどういう

ことかを説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 10。

1 「＊」が「＊」に本を貸したことで、「＊」に知識と想像力を与え、ずっと嫌悪していた馬乗りの日常から離れ、自分の将来に思いを馳せることができるようになったということ。

2 「＊」の将来の夢であった船乗りの知識を「＊」に与えて、共に語り合うことで、馬乗りとしての将来しか考えられなかった

「＊」に船乗りになるという夢を与えられたということ。

3 「＊」が「＊」に将来について考えるよう仕向けたことで、

「＊」は自ら読書をするようになり、本から得た知識により、将来に思いを巡らせることができるようになったということ。

4 「＊」が「＊」に本を貸して読ませることで、知識を与えただけでなく、その知識を基に「＊」と語り合い、将来を思い描く機会や将来の志を立てるきっかけを与えたということ。

問3 傍線部(3)

＊

「とあるが、「

＊

適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 11。

1 自分の心を知るものは「＊」一人であると思い、力となってくれる友人としてたのんでいたのに、結局、自分の行きたかった東京に「＊」だけが行くことになり、「＊」に裏切られたという悲痛な思いに必死に耐えている。

2 いつまでも自分と交友を深めてくれるものと信じ切っていた「＊」が船乗りになるために東京へ留学することを、現実感をもって受け止めることができずにいるとともに、突然の「＊」の告白に対する驚きで言葉を失っている。

3 船乗りになるために行きたかった東京に自分は行くことができず、「＊」が行くことになったことに対する衝撃や、唯一無二の親友である「＊」が自分の許から去ってしまう悲しみから、何も言葉を発することができずにいる。

4 東京に行くことが決まっていたのに、四、五日前になるまで打ち明けてくれなかった「＊」に対する不満と、自分に相談することもなく東京行きを決めてしまった「＊」に対する憤りを口に出さぬよう必死にこらえている。

問4 傍線部(4)「

＊

」とあるが、この表現描写について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 12。

1 大空が霞んでいる様子は二人の涙がにじんでいることを表し、雲雀の啼き声は声を上げて泣きたい二人の心情を伝えるかのように、情景に心理を重ねて表現している。

2 親友とのつらい別れの場面と春の穏やかで美しい情景とを対照的に描写することによって、二人の別れを一層切なく、映画的一幕を観ているかのように印象深く表現している。

3 咲き乱れる花やどこを眺めても美しい景色の描写が、友との別れの悲しみをこらえつつも「＊」の新しい門出を祝福している。「＊」の気持ちを比喩的に表現している。

4 別れに際してうまく言葉を交わせない二人に対して、高らかに啼く雲雀を取り合わせるにより、互いの思いは無言のうちに雄弁に語られているということを表現している。

問5 傍線部(5)「

＊

」とあるが、このときの「＊」の様子について説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 13。

1 突然別れを告げた「＊」が、その後も石橋に立って見送っている姿を目にして、思いを断つべく涙をたたえて別れを告げた「＊」の気持ちに気付いて胸を打たれ、惜別の情が一気に込み上げていく。

2 「＊」が切望していた将来の夢を「＊」が実現したことに對する心苦しきを感じるとともに、「＊」に對する恨みや嫉みを微塵も感じさせることなく見送っている「＊」の様子を見て、後悔の念で一杯になっている。

3 出立の前日の「＊」の門出を祝す饗宴に参加せず、無念の思いに打ちひしがれていた「＊」が、誰よりも遠くまで見送ってくれたことに対して感謝するとともに、石橋に立って見送る「＊」の姿を見て感激している。

4 目に涙を含んで去って行く様子や、いつまでも見送ってくれる「＊」の様子から、二人の夢であった東京行きを一人だけ実現できずに、悔しい思いを抱いている「＊」の分まで東京で成功するぞという熱意に満ちている。

問6 次の記述は、高等学校国語科「文学国語」を履修する生徒が、傍

線部(6)「

＊

「という部分について発言した内容である。この発言を受けた教師の指導内容として最も適切なものは、後の1～4のうちではどれか。解答番号は 14。

生徒…この作品は「＊」をキーワードに、「
」が主題となっているのではないかと思います。例えば、親友同士が別れてから今日まで一度も会わなかったのに、「＊」備後丸に乗り合わせるといふことや、馬に乗ることで交友を深めた二人が、二人とも船乗りになっていたということについて、とても感慨深く、人知を超えた「＊」や「＊」というものを感しました。

1 この作品から「＊」や「＊」を読み取ったことは評価しつつ、キーワードや主題を「＊」や「
＊」とそれぞれ一つずつに限定することなく、複数のキーワードを挙げさせるとともに、複数の主題を考えてみるよう指導する。

2 この作品の主題を「
＊」と読み解いたことについては評価しつつ、作品の前半部分から、「＊」と「＊」の境遇の違いについても読み取らせるよう指導し、キーワードの「＊」を、より適切なものにするよう指導する。

3 この作品からキーワードを「＊」、主題を「
＊」と読み解いたことは評価しつつ、さらに「＊」や「
＊」に該当する箇所がこの作品の至るところに描かれているということの説明し、該当する箇所を考えさせる。
4 この作品のキーワードを「＊」と読み解いたことについては評価しつつ、主題については「＊」と「＊」の出会いから別れまでの展開を読み取らせることよって「＊」や「＊」以外の要素について考えさせ、文章全体の主題を再考させる。

三

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

〔『新編日本古典文学全集』「曾我物語」(小学館)から作成〕

問1 傍線部(1)「

＊

」とあるが、筆者がこのよう

に述べた理由として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 15。

1 一の宮は、都から追放されたことで、かつて春の蘭省で終生の友情を交わした友人も、雨の夜の廬山のような静かな夜を共に過ごした家族も自分のもとを去って行ってしまったから。

2 一の宮は、天皇によって幽閉されたことで、春の蘭省に咲き乱れる色とりどりの花や、夜の霧雨に煙る廬山のような美しい風景を二度と見ることができなくなってしまったから。

3 一の宮は、出家したことで、宮中での華やかな暮らしから、まるで雨の夜の廬山に結んだ草庵の内にいるような寂しい暮らしに変わってしまったから。

4 一の宮は、政争に敗れたことで、美しい花や錦の絹織物を贈り合った人々と離れ離れになり、廬山に結んだ草庵に降る雨のような寂しい気持ちで心を支配しているから。

問2 傍線部(2)「

＊

」の解釈に関する説明として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 16。

1 小野の外れにある一の宮の住まいは、雪深い山中にあっても寂しさを感じさせない風流な様子であるのに、中將が参上したことで優美さがより際立って見えたということ。

2 雪が非常に深く降り積もる、人の往来もない冬の山里であるにもかかわらず、中將がただ一人で一の宮をお訪ね申し上げたのはとても情け深いことであったということ。

3 都でさえ人の往来も珍しい雪の中を、訪ねるべきか迷っていたものの、一の宮が昔と変わらない様子で迎えてくれたことは、中將にとって大きな驚きであったということ。

4 中將は、過去に一の宮に臣下として仕えた者であり、その忠義の心は深いものであったため、雪深い今の住まいに会いに来ることとは自然なことであったということ。

問3 傍線部(3)「

＊

」とあるが、その

理由を、一の宮と中将との関係を踏まえて説明したものととして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 17。

1 重陽の節句のとき、是貞親王家歌合で「

＊

」という和歌を詠んだこと

などが思い出され、一の宮のことがたまらなくいとおしくなったから。

2 重陽の節句のとき、菊の着せ綿の贈り物を頂いた返礼として

「

＊

」

という和歌を詠んだことなどが思い出され、一の宮が気の毒に思われたから。

3 交野に鷹狩りに行ったとき、道中の家に植えられていた桜を見

て「

＊

」

と歌を詠み、一の宮に賞賛されたことなどが思い出され、悲しい気持ちになったから。

4 交野で鷹狩りをしたとき、大して狩りもせず桜を見ては酒を

飲んで「

＊

」などと歌を詠んだことなどが思い出され、しみじみと切なくなつたから。

問4

傍線部

I、

II

の和歌の贈答について説明したものととして最も

適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 18。

1 I は、一の宮が宮中ではなく雪深い山里で寂しく暮らしている

ことを夢ではなかるうかと思っていると詠み掛けているのに対して、II は、夢などと思つてはおらず、むしろこれまで世を捨てなかつたことを後悔している気持ちで詠んでいる。

2 I は、悲しいながらも雪深い山里でかつての主人と出会えた

ことを夢のようにうれしく感じていると詠み掛けているのに対して、II は、この世の中は夢か幻のようだと思つていたが、夢

でも中将に会えたことがうれしいという気持ちを詠んでいる。

3 I は、久しぶりに会う一の宮がすっかり成長していたという

喜びの気持ちを詠み掛けているのに対し、II は、中将が長い間会いに来なかつたのは自分のことを疎ましく思つていたからではないかと考えていた、これまでの自分を反省する気持ちを詠んでいる。

4 I は、雪深い山里に暮らす一の宮の身を案じながらも会えた

ことに感動していると詠み掛けているのに対し、II は、自らの身を顧みると、みずばらしく不自由な生活をしている今の自分の姿を中将に見られたことが悲しいという気持ちを詠んでいる。

問5 二重傍線部A～Dの敬語のうち、筆者から一の宮への敬意を表しているものの組合せとして最も適切なものは、次の1～6のうちではどれか。解答番号は 19。

- 1 AとB
- 2 AとC
- 3 AとD
- 4 BとC
- 5 BとD
- 6 CとD

問6 次の記述は、高等学校国語科「古典探究」を履修する生徒が、本文の表現の特徴について発言した内容である。この発言を受けた教師の指導内容として最も適切なものは、後の1～4のうちではどれか。解答番号は 20。

生徒…この物語には、本文中に七五調の表現が多くみられることから、写本によって広まったのではなく、口伝えによって世の中に広まったのではないかと思えます。一方で、七五調になっていない文は、物語を本として残す際に、作者が新たに書き加えたものなのではないでしょうか。

- 1 本文が作者によって書き加えられた表現を含むことを指摘していることについては評価しつつ、貴族の間では和歌の贈答が自分の心情を伝える手段であったことを確認する。その上で、七五調の部分が登場人物の心情を表していることを説明し、一の宮の「*****」という心情が、書き加えられた部分に繰り返し強調されていることを理解させる。
- 2 本文の伝承が写本ではなく口伝えによるものであることを指摘していることについては評価しつつ、時代によって意味が変化する「*****」が本文の主旨であることを理解させる。その上で、一の宮がいかに高い身分であったかを示す後半部分を丁寧に解釈し、一の宮が中将に抱いている複雑な心情を読み取らせる。
- 3 本文に七五調の表現と七五調でない表現とが混在していることを指摘していることについては評価しつつ、「*****」や「*****」という擬人法を用いた描写から、二人が主従を越えた真の友人であったことを読み取らせる。その上で、七五調の文に表現された箇所とあわせて一の宮と中将の互いを思い合う心情を理解させる。
- 4 本文に七五調の表現が多くみられることを指摘していることについては評価しつつ、七五調の文が読み手にどのような印象を与えるかを考えさせる。その上で、本文中に出てくる固有名詞や「*****」などの表現から、和歌や漢詩を引用して表現された登場人物それぞれの心情を読み取らせる。

四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

『新釈漢文大系』「伝習録」(明治書院)から作成

問1 傍線部(1)「*****」を解釈したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **21**。

- 1 どうして周囲の評判を気にしたり、自分の名を人に知られることを求めたりすることだけに限られるでしょうか。
- 2 なぜ人は外部の人に知識を求めたり、自分の名を知られたりすることに執着してしまうのでしょうか。
- 3 必ずしも外部の人のためだけに学問をするのではなく、自分が成長するために学問をしなければならぬだろう。
- 4 自分のためだけに学問をするようなことがあってはならず、必ず学問は人のためにしなければならぬのである。

問2 傍線部(2)について次の①、②の各問に答えよ。

- ① 傍線部(2)中の「*****」について、この部分を「いづくんぞさらにくふうのなをこのむあるをえん」と読むとき、これに返り点を付したものととして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **22**。
- 1 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。
- 2 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。
- 3 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。
- 4 掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

② 傍線部(2)の内容を解釈したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **23**。

1 実質を得ようとする心は、学問をする者にとって飢えた者が食物を求めたり、渴いた者が飲み物を求めたりするように自然なことなので、どこにも工夫の余地などないということ。

2 若くして実質に辿り着いた者が、飢えた者が食物を求め、渴いた者が飲み物を求めるように名声を得ようとすることは、一度得た実質を失ってしまう愚かな行為だということ。

3 飢えた者が食物を求めたり、渴いた者が飲み物を求めたりするような努力を、名声を得ようとする工夫に応用するならば、その名は必ず世に広く知られるだろうということ。

4 実質を求める心が、飢えた者が食物を求めたり、渴いた者が飲み物を求めたりするように強烈な欲求であるならば、自身の名声を求める余裕などあるはずがないということ。

問3 傍線部(3)「*****」の理由として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は **24**。

1 先生は「*****」の字を「自分の名が賞賛されない」と捉えるべきではなく、「実質が名声に及ばない」と解釈するべきだと考えているから。

2 先生は「*****」の字を「自分の功績を声に出して認めさせようとする」と捉えるよりも、「自分に対する世間の評判が上がる」と捉えるべきだと書き残しているから。

3 侃は「*****」の字を「君子の名声は弟子が後世に残すものだ」という意味に加え、「名声が人々の間でたちまちのうちに広まる」という意味があると考えているから。

4 侃は「*****」の字を「賢者は死後に名を称えられるものだ」と考えているが、本来は「世間で名を上げる者は、責任の重さを知るべきだ」という意味であるから。

問4 傍線部(4)「

＊

」とあるが、この部分につ

いて説明したものとして最も適切なものは、次の1～4のうちでは
どれか。解答番号は 25。

1 孔子は、能力のある人が年を重ねて自然と名声が上がることは、当然の「＊」であって、少しでも早く名を広めるために、自分の徳を貪欲に向上させようとする「＊」でなければならぬと説いているということ。

2 孔子は、国や一族から評判が高いことは、表面を飾る「＊」であって、実質を伴わない名声を求めるべきではなく、内に徳を積んだ後に自然と世間に知られる「＊」でなければならぬと説いているということ。

3 孔子は、自分の名声を性急に高めようとすることは、恥ずべき「＊」であって、私欲に左右されることなく、長い時間をかけてゆっくりと名声を広める「＊」でなければならぬと説いているということ。

4 孔子は、どの国に仕えても必ず名声が上がることは、実際の能力に裏打ちされた「＊」であって、自分の思想を人々に伝えるために、学問に真摯に向き合う「＊」でなければならぬと説いているということ。

五

学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

問1 中学校学習指導要領国語の「各学年の目標及び内容」の「第1学年」の「内容」の「話すこと・聞くこと」に関する記述として適切なのは、次の1～5のうちのどれか。解答番号は 26。

- 1 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。
- 2 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫すること。
- 3 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
- 4 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。
- 5 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

問2 高等学校学習指導要領国語の「各科目」の「現代の国語」の「内容」の「書くこと」に関する記述として適切なものは、次の1～5

のうちのどれか。解答番号は 27。

- 1 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。
- 2 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。
- 3 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。
- 4 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。
- 5 読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫すること。

31 (32採用) 【 中高 国語 】

問 題 番 号			解答番号	正答 1	正答 2	正答 3	配点	備考
大問番号	小問番号							
1	1	ア	1	1			2	
			イ	2	4		2	
			ウ	3	1		2	
		2		4	1		4	
		3		5	4		4	
		4		6	3		4	
		5		7	2		5	
		6		8	1		6	
2	1		9	2			4	
		2	10	4			4	
		3	11	3			4	
		4	12	2			5	
		5	13	1			5	
		6	14	4			6	
3	1		15	3			3	
		2	16	2			3	
		3	17	4			4	
		4	18	1			4	
		5	19	6			3	
		6	20	4			5	
4	1		21	1			3	
		2	①	22	3		3	
		2	②	23	4		3	
		3		24	1		4	
		4		25	2		4	
5	1		26	3			2	
		2	27	2			2	